

Rainbow Project 日本語版 会話：銀行編解説

日本語学習者にとっては、大阪方言はそれまでに習っていない日本語なので、別言語と思う人がいるようです。それはどの言語を学んでも、いわゆる共通語以外で話しているのを聞けば同じことを感じます。日常的な場面では、様々な方言話者が自身の方言を用いて話していることはしばしばあります。一方で、方言と共通語を場面に応じて使い分けられる人も数多くいます。銀行では、銀行員がその土地の方言で接客対応することは、地元民同士による世間話に近いような雰囲気にならないかぎり、まずありえませんが、ですから、銀行での専門用語を理解できれば、スムーズに手続きが進むでしょう。

銀行編では、外国人、共通語話者、大阪方言話者、群馬方言話者の客が登場します。窓口対応以外の会話がなされる場面があります。ある程度日本語共通語が聞きとれるようになったレベルで、登場人物の人間関係をよみとりながら、その人がどういう意図で話しているかを理解していただければと考えております。

なお、撮影時間の制約により収録できる会話が限られていることをあらかじめご了承ください。

1. 口座を作りたいのですが

外国人が日本で通帳を作る際の手続きを示しています。現在では、パソコンやスマホから開設できる銀行が増えていますし、テレビ窓口や無人機で対応する銀行もあります。ここでは聴解教材という性質をふまえて、窓口での具体的なやり取りを示しています。

外国人の場合、居住者か非居住者かが口座開設に関わります。日本に居住して1年以上たっていれば、基本的にはどの銀行でも口座を開設することができます。半年以上1年未満であれば、送金が制限される口座となります。半年未満であれば、ゆうちょ銀行を除いて、ほとんどの銀行で口座を開設できません。(非居住者円預金については、それぞれの銀行の案内をご参照ください。)この点をふまえて、Type A では口座開設までの一連の流れを示し、Type B では断られてしまうやり取りを示しています。

口座開設に必要なものは、本人を証明できるもの(在留カード、住民票、パスポートなど)ならびに印鑑です。基本的には窓口で指示されるとおりに手続きを進めていけば問題ありません。銀行によっては、口座開設の際に一定の金額を入金しなければならない場合がありますが、金額については窓口で説明があります。なお、銀行窓口で外国語対応をしてくれるところは極めて稀少なようです。日本語に自信がない場合は、日本語ができる友人と一緒に行く方がよいでしょう。

脚本を書くにあたって興味を引いたのは、行員が説明の際に用いる「お口座」という言い方でした。「おところ／ご住所」「おなまえ／ご芳名」ですが、「お電話番号」といったように、和語に「お」、漢語に「ご」というのは結構な数の例外があります。「お口座」という言い方に違和感がありましたが、「ご口座」よりはしっくりくるのは何故でしょうか。なお、

銀行員が発する言い方として、本人は「ご本人」、印鑑は「ご印鑑」、入金は「ご入金」です。「現金」には「お」も「ご」もつきません。

2. 円に両替したいのですが

撮影時間の都合で、円に両替するやり取りについては撮影できませんでした。これについては、動画版ではなく音声版で別途公開する予定です。ここでは、両替できなかったシーンのみ公開しています。

銀行窓口で円に両替できる店舗は限られており、両替できるとしても通貨はドルのみという店舗もあります。取り扱いできる通貨の種類や在庫状況は、それぞれの店舗に問い合わせから行く方がいいでしょう。なお、銀行で両替できない場合は、外貨両替専門店を探してみてください。

「口座を作りたいのですが Type B」では、在留期間が短かったため口座を作れず、断られた時に、客が「そうなんですか」と発しています。これは軽い驚きなので、文末が軽微な上昇調となっています。一方で、両替ができないという時に発した「そうですか」は、落胆なので、文末は下降調となっています。

3. 通帳をなくしたので

通帳やキャッシュカードをなくした時に、窓口で再発行してもらおう手続きを示しています。必要なものは、本人を証明できるもの（在留カード、住民票、パスポートなど）ならびに印鑑です。口座番号を忘れてしまった場合は、氏名、住所から調べてもらえます。

なお、再発行には手数料が必要ですが、本編では支払いのやり取りは撮影時間の都合上、割愛しています。

特典映像 1 ATM 前で偶然に

ATMでお金をおろしに来た客と、口座を開設できなかった客が偶然出会ったという設定です。この2人は、旅館編で浅草花やしきと一緒にいった関係なので、「あー、浅草の」という会話になっております。

会話中に「あーねー」が出てきます。これは、無関心でぶっきらぼうな応対をしているわけではなく、軽い納得の際に使われるあいづちとして使われており、この用法については若者言葉として普及しています。「あーね」については、Web上では北九州方言発進という説が散見していますが、関東圏の使用を考えると、長野や群馬の方言から来ているのではないかと推測しています。これらの方言では、若者言葉に特化したものではなく壮年層にも使われています。ただし、性差があり、ほとんどの男性は使っていません。

若者言葉として普及している「あーね」は用法が限定されていますが、これらの方言では「納得（プラス・マイナス）」「理解（プラス・マイナス）」「同意」「無関心」といったような用法があります。また、音調は平板だけでなく、強調型上昇調、上昇下降調、下降上昇調

で実現することがあります。

<参照>

小川麻衣 (2018) 「群馬県方言の応答詞「あーね」についての考察」『外国語学会誌』 47 : 89-107. 大東文化大学外国語学会

特典映像 2 なんかええのない

駅前編、都電編、旅館編に登場した大阪方言の添乗員が、客として出演しています。定期預金が満期になったけれども、利息は安いし、もっと利率がいい金融商品はないかと思って、銀行に説明を聞きに来たという場面になっています。金融商品の説明は、いろいろな確認事項がありますので、最低でも 30 分程度の時間がかかります。よって、撮影時間の制約上、具体的な説明のシーンについては割愛しています。

このシーンでは、飛行機編において共通語で話していた乗客が副支店長であったというリンクになっています。また、駅前編の後、育児休暇に入っている主任添乗員も客としてきており、偶然顔をあわせるという設定です。

別れ際の「ほな」は、「では、また」という意味の大阪方言でのあいさつ言葉です。人によって、使用するかしらないかは分かりますが、「そしたら」「さいなら」などが使われます。